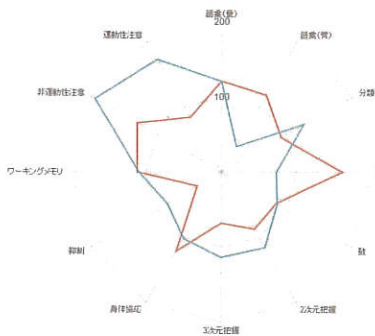


こども脳機能バランサーを導入、子ども一人ひとりの認知機能の発達を定期的に検査します。



何かができない、あるいは特異な行動は、特定の認知機能の弱さ（または感覚の過敏）が関係しています。お子さんがどのプロセスでつまづくかを知ることで、目に見えない「困り感」を把握します。

○ 発達指数の変化



赤れ線グラフに切り替える

	2016年03月	過去200名の平均
読書（数）	120.7	120.7
読書（質）	118.1	39.3
分類	91.7	127.2
文法	161.1	73
数	93.9	85.8
2次元把握	87.7	115.9
3次元把握	68	113.3
身体協応	121.7	101.9
抑製	37.5	83.6
ワーキングメモリ	112.2	110
非運動性注意	130	195.2
運動性注意	94	172.6

※完成年齢と過去200名の平均発達指数を比較して表示
赤色：130以上 黄色：115以上 緑色：85以下 青：70以下

【こども脳機能バランサーとは】

お子さん一人ひとりの認知機能の発達を検査・訓練するソフトです。

※レデックス認知研究所長（五藤博義氏）が開発。ベネッセ研究所長を経て起業。30年以上「学びの環境」の研究開発に取り組む。

